

第二学期始業式式辞

令和6年8月28日

二学期がスタートします。夏休み、充実したでしょうか。一学期の終業式の式辞には、この夏休みが終わって振り返った時に、この夏はこれを頑張ったなど、しっかりと自分の心に誇れる時間にしてほしいと言う話を、獲得年齢という言葉を紹介しながらお話をしました。充実した人は更に二学期も充実したものに、そうでなかった人も、過去はやり直せませんから、新たな目標を持って、今日から新しいスタートを切ってください。本校校歌の作詞者である、坂村真民先生の「今」という詩にも、大切なのは かつてでもなく これからでもない 一呼吸 一呼吸の 今である と表現されています。人は、もう過ぎてしまった「かつて」がいつまでも気になり引きずってしまいがちですし、「これから」の未来のことも、どうなるのかと心配しすぎてしまって、一番大切なはずの今をおろそかにしてしまうことが多々あります。今日この日この時を大事にしなが、二学期をスタートさせましょう。

今日この時間をお借りして一つお話したいことは、みんなと同じ環境の中から世界に羽ばたいた本校卒業生の一人について、出来るだけ短時間でお話したいと思います。熱い中ですので楽にして聞いてください。

私は全く知らなかったのですが、フランスで開催されたパリオリンピックをきっかけに知ることができた、本校卒業生の偉大な皆さんの先輩、道上伯という柔道家の方です。

スポーツ観戦が大好きな私は、パリオリンピックの多くの競技を見ていました。柔道競技もその一つでした。男女混合団体で、東京オリンピック、パリオリンピック二大会とも日本に勝利し連覇した開催国のフランス、そのフランスの柔道の基礎を作り上げた人の一人が、本校の卒業生、道上伯ということを知りました。オリンピックで二連覇をするほど強いフランスの柔道の基礎を作った人が、今、皆さんが学ぶ吉田高校この場所で学んだ人だと知り、感激しました。フランスの柔道競技者人口は約53万で、日本の約4倍、フランスの人口は日本の半分ほどなのに、それほどの人気スポーツの一つになっている。皆さんの先輩、道上さんがいなければ今日のフランスの柔道はなかったと言う人もいます。20年以上も前に亡くなられているのに、2022年には、生誕110年を記念したシンポジウムをフランス柔道連盟が開催したそうです。また、50数年間フランスのボルドーという町を中心に多くの柔道家を育てたことから、2023年には、フランスのボルドー市が「ハクミチガミ」と名付けた柔道場を開いたということです。

このことから、勝ち負け以上に礼儀を重んじ、試合相手の存在を尊重するなど、道上さんが注ぎ続けた武道の心、精神、心を磨き技を磨き体を鍛えるなど、道上さんがもつた武道が、日本人以上にフランス人に継承されている証だと思います。私たち日本人が失いつつある精神を、道上さんは外国で立派に残したことは、素晴らしい業績です。日本以上の柔道大国になったフランスに色濃く継承されている、道上さんが指導した礎、基礎はこれからも異国フランスの地で生き続ける。ここで私が皆さんに言いたいことは、道上さんに続く存在が必ず、今この場にいるということです。今吉田高校で学んでいる皆さんのことです。柔道スポーツに限らず、建築など工業のこと、自分の得意な分野で、世界に影響を与えるような存在がここにいるはず。それは、貴方かもしれないし、貴方の横、前後左右にいる人かもしれない。フランスがこのような柔道大国になり、それを自分が導いていくなど、道上さんが高校生時代に彼自身も想像もしていなかったことでしょうし、周囲の友達も考えてもいなかったことでしょう。皆さんもこれからの自分がどうなるのか同じように想像もつかないかもしれません。しかし、ここ吉田高校で同じように学んだ彼ができたのですから、皆さんもできるはず。少なくとも私はそう信じています。

少し長くなりました、二学期は、体育祭や文化祭などの学校行事、部活動では新人大会、各種コンテスト、発表会などがあり、皆さんが活躍するイベントが数多くある学期です。また、3年生にとっては、進路実現にむけて羽ばたく大切な時です。いろいろと忙しい時となりますが、それぞれの活躍を期待して、私からの式辞とします。